

ニハ、一週間ト限定期ヲセズニ、數箇月間期間ヲ伸長スル方ガ適當デハナイカト云フ質問ガゴザイマシタ、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、テハ其ノ以外ハ、總テ民法ノ原則ニ依シテ債務者ハ不可抗力ヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免レ得ルノデアルカラ、何等ノ不都合ハ生ジナイト云フコトデアリマシタ、又裁判所ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ攻撃防禦ノ方法ノ提出期間ヲ定メ得ルト云フ第六條ノ規定、證人又ハ鑑定人ニ對シ訊問ニ代ヘ書面ヲ以テスル回答ヲナサシメ得ルト云フ第九條ノ規定、調停ニ付テ現地調停ガ出來ルト云フ第十七條ノ規定、所謂強制調停ノ擴張ニ關スル第十九條ノ規定ノ如キハ、單リ戰時ニ限ラズ平時ニ於テモ、亦必要ニシテ適切ナル規定デアルカラ、寧ロ法律ヲ改正シテ恒久法トスペキデハナイカ、又民事訴訟ノ敏捷的確ナル解決ヲ圖ルガ爲ニハ、當事者ノ處分權主義ヲ制限シテ、職權主義ヲ強化スベキモノデハナイカトノ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シテ政府ヨリハ、民事訴訟ニ於テハ當事者ヲシテ十分ニ攻撃防禦ノ方法ヲ盡サシムルノガ本旨デアリ、是等ノ規定ハ、主トシテ交通機關ノ杜絶其ノ他戦争ニ附隨スル諸種ノ障碍ヲ考慮シテ、必要已ムヲ得ザル手續ノ簡捷化ヲ圖ルコトヲ目的トスル特例デアルカラ、之ヲ恒久立法トセズニ戰争ノ終了ト共ニ之ヲ廢止シタイ、又職權主義ヲ適當ニ強化スルコトハ、政府ニ

於テモナヲ考慮シて居ルノデアルガ、何分此ノ問題ハ影響スルコト極メテ廣汎デアッテ重大デアルカラ、戰時ニ於ケル臨時應急ノ特例ヲ設ケムトスル本案ニ於テハ、之ヲ取上ガルコトハ妥當デナイト考へ、此ノ點ニ關シテ特別ノ規定ヲ設ケナカツタノデアルガ、訴訟ノ促進ト適正ヲ圖ルガ爲ニハ、民事訴訟ノ全般ニ瓦リ新タナル見地ヨリ検討ヲ加ヘテ、改善ヲ要スル點ガ多々アラウト考ヘラレルノデ、戰時中ト雖モ銳意之ガ改善ニ努力スル心算デアルト答辯ヲセラレマシタ、又各種調停ニ付統一法ヲ制定スベシトノ意見ニ對シテハ、平和回復後ニ法典整備ノ問題トシテ十分ニ考慮スルトノコトデゴザイマシタ、次ニ戰時刑事特別法案ニ付テ申上ゲマスト、國政變亂ノ目的ヲ以テスル殺人事件ニ關スル最近ノ事例ノ説明ヲ求メラレマシタガ、事件ガ豫審ニ繫屬中ノ故ラ以チマシテ祕密會ニ入リマシタ、其ノ席上ニ於テ政府側ノ説明ヲ聽取致シマシタ、次ニ經濟犯罪ノ一般情勢並ニ統制經濟ニ絡ム瀆職事件ニ付テノ質疑ガゴザイマシタ、國民ガ此ノ重大ナル時局ニ鑑ミ多大ノ不便ヲ忍ビ統制ニ服シ之ニ協力ヲシテ居ル際ニ、其ノ統制ノ局ニ當ル者ガ瀆職罪ヲ犯スガ如キコトハ、其ノ事が單ニ憎ムベキコトデアルノミナラズ、一般民心ニ及ス影響モ極メテ重大デアツテ、國策ノ遂行上寒心スベキモノガアル、斯カル官吏ノ瀆職ニ對シテハ、此ノ度ノ戰時刑事特別法ヲ制定セラレル機會ニ、其ノ刑ヲ十分加重

スル規定ヲ設クベキモノデハナイカトノ質問ガゴザイマシタ、之ニ對シテ政府側デハ公務員ノ瀆職行爲ニ付テハ、既ニ第七十六議會ニ於ケル刑法ノ一部改正ニ依リマシテ刑罰ガ加重サレテ居ルノミナラズ、政府ニ於テハ行政ニ關スル考査ノ制度ヲ實施シ、其ノ新タル機構ニ依リ官紀ノ振肅正ヲ圖ルト共ニ、他面此ノ種ノ事犯ノ檢舉ニ付テモ一層之ヲ嚴正ニシテ、斯カル犯罪ノ防遏ヲナシ得ルト考ヘテ居ル、尙戰時刑事特別法案ノ第一章ニ規定スル所ハ、戰時ニ直接關聯スル最少限度ノ刑法的措置デアツテ、茲ニ規定スル罪ハ、控訴審ガ省略サレテ居ル關係上、本案ノ中ニハ公務員ノ瀆職行爲ニ關スル規定ヲ設ケナカッタモノデアルトノ答辯ガアリマシタ、又第七條ニ該當スル罪ノ如キハ、戰爭終了後ニ於テモ適用サレル場合ガ想像サレハシナイカトノ質問ニ對シ、政府側ハ、本條ハ戰時ニ限り必要ト信ジテ立案シタモノデアルガ、戰爭終了後ニ於テモ萬々一二モ其ノ必要ガアレバ改メテ緊急ノ措置ヲ執ル考デアルト答ヘラレマシタ、次ニ第十五條ニ付、特ニ買占、賣惜ノミヲ對象トシタ理由由ヲ質サレタノニ對シテ、政府ノ答辯ハ、買占、賣惜以外ノ行爲ハ現行法規ノ範圍内デ十分ニ處理出來ルガ、買占、賣惜ハ現在ノ商工、農林省令ニ依ル取締規則ダケデハ不十分ナノデ、特ニ斯カル行爲ノミヲ取上ダタ次第デアルトノ答ニアリマシタ、第七條ノ「國政ヲ變亂」スルコトノ字句ニ付テノ質疑ニ對シテハ、國政トハ國

ノ基本的ナ政治ヲ意味シ、國家ノ基本的制度ノミナラズ、其ノ機能、即チ活動的ナ方面ヲ總テ指摘シテ説明スルト云フコトハゴザイマシタ、次ニ第二十條ニ付キ辯護人ノ數ヲ一人ニ限ルコトノ根據ニ付質問ガアリマシタガ、政府側ハ、是ハ戰時下ニ於テ此ノ種ノ事件ヲ特に迅速ニ處理シテ國內不安ヲ除カムトスル爲必要已ムヲ得ザル制度デアルトノ答辯ガアリマシタ、第十條ニ付キマシテハ、第一項ニハ「公共」ト云フ字句ガアリ、第二項ニハ「公共」ノ字句ガナイ理由ガ質サレタノニ對シ、政府側ヨリハ、是ハ第一項ノ立法趣旨カラシテ自家防空ヲ特ニ除外スル意味ヲ明カニシタモノデアルトノ答辯ガアリマシタ、更ニ第十三條ノ「國防上重要ナル生産事業」、第十五條ノ「生活必需品」ノ意義ニ付テノ質疑ガアリマシタガ、政府側ヨリハ前者ハ國防目的達成上重要ナル生産事業ノ意味デアリ、所謂重工業ノ如キモノガ之ニ屬シ、後者ハ戰時下ニ於ケル一般國民ノ日常生活ヲ維持スルニ必要缺クベカラザル物品ヲ意味スルモノデアルト答へ、ソレドヽ實例ヲ舉ゲテノ説明ガアリマシタ、第二十六條ニ付キマシテハ、現行法ノ下ニ於テ行ハレテ居ルヤウニ一々證據ノ内容ヲ總テ指摘シテ説明スルト云フコトハ實際煩ハシキニ過ギルコトデアッテ、從ツテ現在ノ判決ノ形式ヲ改メムトスル本條ノ趣旨ハ、戰時ニ於ケル事務ヲ簡捷ニスルト云

フ上ニ於テ結構ナ措置デハアルガ、苟モ人ヲ處罰スルコトヲ明カニスル以上餘リ簡略ニ失セザルヤウニ、本條ノ運用ニ當ツテハ良キ裁判慣習ヲ作ラレルコトニ留意セラレタイトノ意見ガ述ベラレマシテ、政府側ニ於テモ其ノ趣旨ヲ十分了承サレマシタ、其ノ後數次ニ亘リマシテ懇談會ヲ開キ、席上一委員ヨリ統制事務ニ從事スル公務員ノ処職ニ對スル刑罰ノ加重規定ヲ設クベキデアルトノ意見ガ出マシタ、之ニ對シテ司法大臣ハ大要左ノ如ク述ベラレマシタ、即チ、經濟統制ノ事務ヲ擔當スル公務員ガ其ノ統制事務ヲ正しく執行スルカ否ヤハ、國防經濟ノ完遂ヲ期スル上ニ重要ナ關係ヲ有スルモノデアルカラ、統制事務ヲ擔當スル公務員トシテハ、深ク其ノ重責ニ思ヒヲ致シ、自肅自戒常ニ廉潔ヲ保持シテ統制事務ノ適正ヲ期セネバナラヌコトハ勿論デアル、然ルニ最近經濟統制ノ強化ニ伴ヒ、統制事務ヲ擔當スル公務員中、濱職ノ罪ヲ犯シ、檢舉處罰セラル者ガ二三ニシテ止マラナイコトハ、誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアル、而シテ之ガ對策トシテハ、官紀ヲ振肅シ經濟統制ノ行政事務ヲ刷新シテ、犯罪ノ原因除去ニ努メルト共ニ刑罰規定ヲ加重整備シ、スル刑罰規定ニ付テハ、既ニ第七十六回帝國議會ノ協賛ヲ得テ制定セラレタ刑法中改正法律案ニ依ツテ、必要ナル改正ガ行ハレスル

務員ノ廉潔ヲ保チ公務ノ適正ヲ期スルコトニアッタノデハアルガ、支那事變以來時局愈々緊迫ノ度ヲ加へ、戰時態勢ヲ速カニ整備スルノ必要上、經濟統制モ亦急速ニ強化セラレ、其ノ運營上官公署ノ許可認可當スル公務員ノ廉潔ヲ確保スルニアラザレバ經濟統制ノ適正ヲ期シ得ラレナイバカリデナク、國民ノ思想上ニ及ス影響モ甚ダ憂慮スペキモノガアッタ爲此ノ故ニ瀆職罪ノ規定ヲ整備強化シテ官紀ノ振肅ニ資スルコトガ改正ノ眼目ノ一ツトシテ取上ゲラレタノデアル、勿論當時ニ於テハ今日ノ如キ戰争ハ明カニ豫想セラレタ所デハナカッタノデアルガ、所謂超非常時ニ入ッテ臨戰態勢下ニ在ルモノトサレタ時デアッテ、昭和十五年春以來、緝制經濟ノ擴大ニ伴ツテ統制事務ヲ管掌スル官廳ノ權限モ亦急激ニ増大スルニ至ツタノデ、統制事務ニ關聯スル收賄其ノ他職務上ノ犯罪ニ對スル防遏ノ方法トシテ改正セラレタモノデアル、即チ其ノ改正ノ趣旨トスル所ハ、經濟統制ニ關スル濫職罪ニ關スル規定ノ從前ノ不備ヲ補ツテ、請託ノアツタ場合等ニ於テハ之ヲ嚴重ニ處罰セムシテ嚴正ナル取締ヲ厲行シテ之ガ防遏ニ違算ナカラムコトヲ期シテ居ルノデアル、官紀ノ振肅ニ付テモ、公務員ノ廉潔ヲ保持シテ瀆職罪ヲ防止スル爲ノ根本的必要事項ナ

ルニ鑑ミ、政府ニ於テハ官紀ノ振肅ヲ以テ
重要ナル使命トシテ、銳意吏道刷新ニ努力
ヲシテ居ル次第デアル、更ニ經濟統制ニ關
スル行政事務ノ刷新ニ付テモ、事務ノ繁忙
ニ依テ從來兎角事務ヲ滞滯セシメ勝チデ
アリ、是ガ貪收賄ノ原因トモナツテ居タコト
ニ鑑ミ、最近行政事務處理簡捷令ヲ制定シ
テ、行政者査制度ノ活用ト相俟テ統制事務
刷新ノ方途ヲ講ズルコトニナツテ居ル、殊ニ
戰時刑事特別法案第一章ハ、戰時ニ於ケ
ル治安確保ノ爲特ニ迅速處理ヲ要スルモノ
トシテ、控訴審ヲ省略スルコトトシタ關係
上、萬已ムヲ得ザル範圍内ニ於テ最少限度
ノ規定ヲ設ケタモノデアル、假ニ經濟統制
ニ關スル公務員ノ收賄罪ノ刑ヲ加重シテ、
其ノ罪ニ關スル事件ノ控訴審ヲ省略スルト
ジテ、所謂必要的共犯トシテ是ト不可分ノ
關係ニアル贓賄罪ヲ、從前通り三審制ニ依
ラシムルガ如キハ不合理デアルバカリデナ
ク、曩ニ收賄罪ニ關スル刑罰規定ヲ加重整
備シテ間モナイ今日、重ネテ更ニ之ヲ加重
スルコトハ、對外的影響ノ點モ考慮シナケ
レバナラスト思ハレルノデアル、政府トシ
テハ今暫ク刑法改正法律案ノ運用ノ實績ニ
徵スルコトトシタイト思ッテ居ル、政府ニ
ニ對シテハ嚴正ナル檢舉ノ厲行ニ努ムル方
針デアル、ソレデモ尙不十分ナリト認ヌル
時ニハ早速法律改正ノ手續ヲ執リ、斯カル
官吏ノ刑ヲ加重スル所存デアル、以上ノ理

由ニ依ツテ、政府トシテハ今直チニ經濟統制事務ヲ擔當スル者ノ瀆職罪ニ關スル刑罰ヲ加重スル所ノ規定ヲ設ケルコトニハ、遺憾ナガラ贊意ヲ表スルコトガ出來ナイト述べラレマシタ、又陸軍省政府委員カラハ、軍ノ監察能力ヲ十分發揮シテ決シテ國民ノ信賴ニ背カヌ方法ヲ執ツテ居ルト云フ力強イ發言ガゴザイマシタ、次ニ戰時刑事特別法案ニ付テ質疑ヲ繼續シテ、一委員ヨリ、第七十六議會ニ於キマシテ治安維持法中改正法律案ノ委員會ノ席上ニ於テ、當時ノ柳川司法大臣ハ、憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變改スルコト、又ハ私有財產制度否認ノ思想ノ宣傳行爲ニ對スル刑罰規定ノ制定ヲ公約サレタニ拘ラズ、本案ニハ其ノ規定ガ漏れテ居ルノハ如何ナル理由デアルカ、當時ト較ベテ社會情勢ハ依然トシテ變ラナイ、ト云フヨリハ寧ロ右ニ述ブルガ如キ行爲ハ增加ノ趨勢ニ在ルヤウニ考ヘラレ、其ノ處罰ノ必要性ハ益々大キイト思フ、又政府ノ公約ハ大臣ガ代ツモ影響ヲ受クベキモノデハナク、其ノ法案ノ提出ナキハ頗ル遺憾デアルトノ意見ガ述ベラレマシタ、司法大臣ハ之ニ對シテ、前大臣ノ言明ハ深ク之ヲ尊重スル、刑事特別法ノ中ニ第七條ヲ設ケタノモ此ノ趣旨ニ外ナラナイノデアル、今回此ノ問題ニ付テノ御意見ノ次第ハ能ク了承シテ居ル、此ノ以外ノ必要ナル規定ニ付テハ速カニ研究ヲ遂ゲ、必ず御期待ニ應ズル所存デアルト云フ旨ヲ答へラレマシタ、以上デ各議案ニ付テノ質疑

ヲ終了致シマシタ、尙其ノ他ノ質疑應答ノ詳細ニ付キマシテハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタト存ジマス、尙茲ニ附言致シタノハ、本委員會ニ於テ、官吏ノ瀆職罪ノ發生ニ鑑ミマンシテ東道刷新ニ關シ、特ニ本會議ノ席上ニ於テ總理大臣ノ御所見ヲ承ルコトヲ希望致シマシタ、以上デ各法案ニ付テノ質疑竝ニ懇談ヲ終リマシテ、討論ニ入リマシタガ、戰時民事特別法案ノ討論ニ當リマシテハ、岩田委員ヨリ、第二條第二項ニ「但特別ノ事情アル場合ニ於テハ更ニ相當ナル期間ヲ經過シタルトキ満了ス」トノ但書ヲ附スベシトノ動議ヲ提出サレマシタ、其ノ理由ハ、此ノ第二條ハ、第一項ニ於テ戰爭ニ起因スル避クベカラザル障碍ニ因リ期間ヲ遵守スルコトガ出來ナイ場合ニ於テハ其ノ期間ヲ伸長スルノデアルガ、第二項ニ依ルト伸長期間ハ一週間ニ限ラレテ居ルノデアル、約定期間ニ付テ考ヘレバ此ノ第二項ハ不十分デアル、何トナレバ障碍ハ不可能デ、二週間或ハソレ以上經過シテ、始メテ履行ノ出來ルヤウチ場合モアルノデ、一週間ダケヲ當然延長スルト云フナラバ、右ノヤウナ特別ノ場合ニハ更ニ相當期間當然伸長セラルベキモノデアル、若シ政府ノ御説明ノヤウニ、一週間以上ニ付テハ民法ノ一般原則ニ依ルモノトスレバ、一週間ダケハ戰爭ニ起因スル障碍ガアッタコトダケ證明スレバ期間不遵守ノ責任ヲ免レルノニ、ソレ以上ノ分ニ付テハ戰爭ニ起因ス

ル障碍ガアッタコトノ外、期間不遵守ノ點ニ付テ過失ガナカツタコトモ證明シナケレバナラナイコトニナッテ、不公平デアル、ト云フコトガ修正案提出ノ理由デアリマシタ、之ニ對シ政府ハ、障碍ノ止シダ時カラ一週間ダケハ、總テノ契約ニ付テ謂ハマ「モラトリーム」的ニ期間ヲ伸長シ紛争ヲ避ケタイト云フ趣旨ニ於テ第二項ノヤウニ立案ヲシタノデアル、其ノ後ノ分ニ付テハ、民法ノ一般原則ニ依ヅテ十分ニ解決セラレルモノト思フ、其ノ趣旨ハ司法省部内ニ、司法關係者ニ十分徹底サセル積リデアル、尙原案ハ、期間終了ノ當時ニ障碍ノアッタ場合ダケニ付テ適用セラレル趣旨デアルト云フコトデ、修正案ニ反對ノ意見方述ベラレマシタ、サウシテ此ノ修正案ニ付テハ贊成少數ノ爲ニ成立シナカツタノデアリマス、次ニ戰時刑事特別法案ニ付テ討論ヲ行ヒマシタ處、次田委員ヨリ、第十四條ノ次ニ、戰時ニ於ケル經濟統制ノ專務ニ從事スル公務員ノ瀆職行爲ニ對シ刑法所定ノ刑罰ヲ加重スル規定ヲ三箇條插入スル修正ノ動議ガ提出サレ、岩田委員ニ賛成ヲセラレマシテ、動議ガ成立シマシタ、次田委員ハ其ノ提案理由ニ說明トシテ、我ガ國ハ目下大東亞戰爭ヲ遂行シツ、アルノデアツテ、其ノ目的ノ達成ノ爲國民ハ有ラユル犠牲ヲ忍ビ、特ニ嚴格ナル經濟統制ニ協力服從シテ居ルニ拘ラズ、其ノ統制ヲ爲ス官吏ニシテ統制事務ニ關シ瀆職行爲ヲ爲ス者ガ相當ノ數ニ上リ、昭和十五年、昭和十六年ノ二年間ニ

起訴セラレタル者約百名ニ及ビ、内、奏任以上ノ者二十二名、而モ其ノ中ニハ勅任官モ數名アルトヨコトデアル、斯クノ如キ者ハ實ニ其ノ罪萬死ニ値シ、戰爭目的達成ノ爲多大ノ勞苦ヲ忍ンデ統制ニ從ツテ居ル國民ノ業務上不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テスル買占、賣惜行爲ニ付テハ、從來ノ取締規則ニ依ル三箇月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ト云フ刑罰ニ對シ、五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ト云フ加重刑ヲ定メテ置キナガラ、統制事務ニ從事スル公務員ノ瀆職行爲ニ對スル刑罰ノ加重フシテ居ナイト云フノハ甚ダ失當デアル、而シテ本修正案ハ、刑法ノ瀆職ノ規定ニ倣ヒ構成要件ヲ定メタモノデアリ、其ノ刑ノ加重ノ程度ニ付テハ本案ノ他ノ罪ニ對スル刑ノ加重ノ程度ニ準ジタモノデ妥當ト信ズル、此ノ修正案ニ對シマシテハ、第七十六議會ニ於テ兩院ノ協賛ヲ經テ御裁可公布セラレタル刑法中改正法律ニ於テ、既ニ戰時狀態ヲ豫想シテ公務員ノ瀆職ニ對スル刑ヲ加重シタ故、今更加重ノ必要ハナイト云フ反對意見ガアルカモ知レナイガ、右ノ改正法律ニ於テ刑ヲ加重セラレタノハ、請託ヲ受ケタ場合、因テ不正ノ行爲ヲ爲シタ場合ダケデアッテ、單純ナ瀆職ノ刑ハ加重サレテ居ラナイノデアル、又其ノ加重ノ程度モ不十分デアルノミナラズ、刑法ハ恆久法アルノニ對シ本案ハ戰時立法デアルカラ、戰爭終了後ニ於

テハ國民ノ賣情、買占等ノ不正行爲ニ對ス
ル加重刑ハ廢セラレルノニ、公務員ノ瀆職
罪ノミガ元ノ儘ニ置カレル關係ニナルノデ
甚ダ不合理デアル、次ニ統制經濟ノ事務ニ
從事スル公務員ノ瀆職ニ對スル刑罰加重ノ
規定ヲ本案ニ挿入スルトキハ、裁判所構成
法戦時特例案ト相俟テ 控訴審ガ省略セラ
レルコトニナリ、他ノ瀆職事件トノ均衡ヲ
失スルトノ意見モアルヤウデアルガ、前者
ノ罪ガ特ニ重イト云フ考カラスレバ敢テ之
ヲ異トスルニハ足リナインデアル、殊ニ裁
判所構成法戦時特例案第四條ニ掲グル食糧
管理法案ニモ亦瀆職規定ガアリ、其ノ罪ニ
關ズル事件ニ付テハ當然控訴審ノ省略サレ
ルノデアルコトヲ思ヘバ、此ノ點ハ反対ノ
理由トハナラナイノデアル、併シナガラ若
シ審級省略ガドウシテモイケナイト言フノ
ナラバ、此ノ點ニ付テハ裁判所構成法戦時
特例案ノ審級省略ノ規定ノ適用ヨリ除クヤ
ウニシテ宜イノデアル、更ニ本修正案ニ對
シテハ、原案ニ全然無イ事項デアルカラ本
委員會ノ審議權ノ範圍ニ屬セストノ意見ガ
アルカモ知レヌガ、貴族院本會議ニ於テハ
發案權ガアルコトカラ當然斯カル修正案モ
提出シ得ル譯ズアリ、委員會ニ於テモ、原
案ニ依リ當然影響ヲ受クベキ事項ノ範圍ニ
於テハ、原案ニ無イ事項ヲ修正案トシテ提
出スルコトガ出來ルノデアル、其ノ顯著ナ
例トシテハ、昭和九年ニ於ケル治安維持法
中改正案ノ貴族院ノ委員會ニ於テ提出セラ
レタ修正案ガアル、本修正案ニ付テモ委員

會ニ其ノ審議權ノアルコトハ明白自疑ヲ容レ
ルノ餘地ナイト思フ、自分トシテハ、修正
案ガ否決セラレタ場合ニ木會議ニ於テ修
正案ヲ提出スル考ハナイガ、若シ委員會ニ
其ノ審議權ナシトノ理由デ否決サレルナラ
バ、是ハ委員會ノ審議權ノ問題トシテ恆久
的重大問題デアルカラ、本會議ニ於テ飽ク
迄モ争フ考デアルト述ベラレマシタ、修正
案ニ付テ採決ニ入リマシタル處、賛成者少
數デ否決トナリマシタ、斯くて本委員會ニ
付託セラレマシタ四法律案ヲ一括シテ討論
ニ入り、續イテ採決ヲ行ッタノデアリマス
ガ、異議ナク茲ニ原案全部ヲ可決致シタ次
第デゴザイマス、右御報告ヲ終リマス
○議長(伯爵松平義壽君) 總理大臣ヨリ發
言ヲ求メラレテ居リマス、東條内閣總理大
臣

〔國務大臣東條英機君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(東條英機君) 只今委員長ノ御
報告ニ於キマシテ、官吏ノ犯罪ニ付テ議論
ノアリマシタコトヲ拜承致シマシタ、且之
ニ對スル總理大臣ノ所見ヲ御求メニナリマ
シタニ付キマシテ、私ハ茲ニ一言所見ヲ申
述べタトイ存ズルノデアリマス、官紀ノ肅
正ニ付キマシテハ、國ヲ舉ゲテ征戰目的ノ
完遂ノ爲道進ヲ致シテ居リマスル所ノ今日、
特ニ其ノ必要ヲ痛感スルノデアリマシテ、
政府モ深ク恩ヒヲ茲ニ致シマシテ居ルノデ
アリマスルダ、現在ノ官界ニ於キマシテ、
大多數ノ官吏ハソレヽ懸命ナル努力ヲ以
テ、至誠、其ノ職務ニ精進シテ居リマスル

實情ヲ茲ニ披瀝致シマスルコトノ出來マス
ルコトハ、私ノ光榮ト存ズル所デアリマス
然ルニ今尚、極メテ一部ノ問題デハアリマ
スルガ、官吏ノ犯罪ノ事實ヲ耳ニ致シマス
ルコトハ、誠ニ遺憾至極ニ存ズル次第デア
リマシテ、此ノ點カダ由譯ナイト存ジテ居
リマス、政府ト致シマシテハ、官吏ガ上下一
貫、發憤自肅、身ヲ持スル益、嚴正、事ニ從
テ愈、精勵、以テ御奉公ニ身心ヲ捧ゲマスル
ヤウ今後層一層ノ努力ヲ盡ス覺悟デゴザイ
マス、終リ

トデ、殊ニ總理大臣ガ言明サレタコトデゴザイマスルカラ、是ノ目的ヲ達スルコトハ必ズ出來ルコトト信ジテ居リマス、併シドウ云フ譯デ斯ウ云フ風ニ官吏ノ犯罪ガ多イカト云フコトヲ見テミマスト、段々質問應答ノ工合ヲ伺ツテ見マスルト云フト、是ハ官僚政治ノ賜ナシニアル、議會政治ヲ止メテ官僚政治ニナレバ、斯ウ云フ風ニナルノハ當リ前ナンデス、政黨ガ惡イ／＼ト言フ、成ル程惡イ、惡イケレドモ、政黨ノ害ハ爪ノ先カ頭ノ毛ノ先位ノモノデ、切ツテ取ッテシマヘベ何デモナイ、官吏ノ腐敗ニ至リマシテハ内臓ノ病氣ナンデス、之ヲ發見シテ取去ルコトハ容易デヤナイ、併シ明日カラ議會政治ニシロト言ハレテモ、是ハ言フ方ガ無理デセウカラ此ノ事ハ先ヅ暫ク之ニ止メテ置キマシテ、次ニ申上ガタイノハ當面ノ急務、司法部内ノ刷新デアリマス、司法部内ノ刷新、障容ノ建直シガ出來ナケレバ此ノ問題ハ解決ハ致シマセヌ、是ハ口デ言ッテマヘバソレギリノコトデスガ、又詳シイコトハ此處デハ申上ガラレナイ、コンナ公開ノ席上デハ何ボ何デモ申上ガラレナイ、申上ゲラレマセヌケレドモ、内外ニ瓦ル藉棘ヲ拓クト云フコトハ容易ナコトデヤナイ、司法大臣ノ心中御察シ申ス、之ニ對スル努力ト云フモノハ非常ナコトダラウト思フ、決シテ是ハ司法大臣一個ニ御任セスルコトハ出來ナイ、政府ヲ舉ゲテヤッテ戴キタイ、殊ニ總理大臣等ハ隨分此ノ點ニ力ヲ入レラレテ、司法大臣ヲ助ケテ此ノ刷新ヲ

先づ以テ御ヤリニナル、サウシテソレヲヤラナケレバ、此ノ官吏ノ腐敗ト云フモノハ止ムコトハゴザイマセヌ、是ハ申上ゲテ置キマス、ソレカラ尙一ツ私ガ之ニ附加ヘテ法ノ改正ヲスルコトハ詰リ政府トシテハ反對デアル、私有財産制度ノ廢止ノ宣傳、竝ニ議會政治ノ否認ト云フヤウナコトヲ、治安維持法ニ規定スルコトハ御反對デアルト云フコトハ屢々伺ッテ居ル、ソレデアリマスカラ此處デ又質問應答ナドヲ繰返ス必要ハナインゾザイマスガ、今一應之ニ付テ政府ノ反省ヲ得タイ、世間デ赤トカ黒トカ右翼トカ左翼トカ申シマス、併シナガラ治安維持法ノ上ニハ赤トモ黒トモ書イテナイ、唯一國體擁護アルノミ、是ガ治安維持法ノ趣旨ダラウト思ヒマス、黒デアルト赤デアルトヲ問ハズ、左翼デアルト右翼デアルトヲ問ハズ、苟モ國體ニ影響ヲ及スヤウナ思想ハ斷ジテ之ヲ懲戒シケレバナラス、ソレデソレニハ色々ゴザイマセウ、色々ゴザイマセウガ、憲法上カラ之ヲ見マスルト云フト三點アル、第一ハ榮譽權デアル、第二ハ私有財產權デアル、第三ハ國民ノ參政權デアル、第一點ハ社會上ノ問題デアリ、第二點ハ經濟上ノ問題デアリ、第三點ハ政治上ノ問題デアル、此ノ三點ガ國體ヲ擁護シテ居ル所ノ外壁ニナツテ居ル、榮譽權ノコトハ暫ク措キマスガ、國體變革ナドト云フ不

都合ナコトヲ唱ヘル者ハ何人ト雖モ皆私有財産廢止ト云フコトヲ言ッテ居ル、又爾ツテ私有財產廢止ヲ唱ヘル者ハ必ズ國體ノ變革ヲ一面ニ思ッテ居ル、是ハ日本デハサウ云フテ居ル、是ハ申上ゲル迄モナイコトニアリマズ、初メテ治安維持法ヲ制定サレマス際ニ私ハ特別委員ニ選任サレマシタ、其ノ時ノ治安維持法ハ、私有財產廢止ト共ニ國體ノ變革ニ同ジ刑ガ盛ダアッタ、之ニ付テ、變デヤナイカ、事ノ大小輕重ヲ辨ヘナイ議論デヤナイカト云フ……規定デヤナイカト云フ議論ガアッタノデゴザイマシタ、當時ノ司法當局ノ説明ニ依レバ、サウ云フコトハナイノダ、是ハ密接離ルベカラザルモノデアル、成ル程私有財產廢止ト言ヘ非常ニ綺麗ニ聞エルケレドモ、是ダケノ大キナ變革ラヤルト云フコトニナレバ、勢ヒ外ヘ影響ヲ及スヤウナコトガアッタラ容易ナラザルコトデアル、ソンナコトハ御承知グラウガ、ウシテモ同じ刑ヲ以テ科サナケレバナラヌ、ト云フコトデ通過致シマシタ、斯ウ云フ沿革モアリマス、若シ此ノ私有財產ヲ撤廢サレバモウ少シヒド一所迄影響ヲ及スヤウニ行ク、詰リ外郭ト云フモノガ崩サレルト云フコトハ申ス迄モナイ、參政權モ同じデゴザイマセウ、專制政治ガドレダケ日本ノ國體ニ惡イ影響ヲ及シタカ、日本ノ固來ノ三千年ノ歴史ヲ顧ミテ見レバ分ル、蘇我氏ノ横暴ハ大化ノ革新ニナッタ、藤原氏ノ專制ハ後三條天皇ノ革新ニナッタ、北條氏ノ擅權

ハ、楠新田諸公ノ活躍トナッタ、遂ニ江戸時代ニ至リマシテ水戸思想ガ勃興シテ、明治維新ニ至ッテ實ヲ結シダ、ドレダケ專制主義ト云フモノガ日本ノ國體ニ害ラナシタト云フコトハ小學校ノ生徒モ知ッテ居ル、日本ノ歴史ト云フモノハ詰リソレヲ言ッテ居ルモノナンダ、ソコデ出来上タモノガ此ノ立憲政治、國民ヲシテ政治ニ參與セシメ、議會ヲ以テ政治ノ中心トシテ、サウシテソレト政府ト密接ナ關係ヲ以テ輔弼ノ任ヲ果ス、是ガ憲政ノ眞髓デアル、處ガ往々ニシテ之ヲ否認スル者ガアル、之ヲ否認シテ又專制ノ昔ニ復セバ、折角三年來ノ忠臣豪傑ガ盡策シテ來タ所ガマルデ水泡ニ歸スル、又元ノ昔ノ幕府時代ニモウ一遍戻シテ來日本ノ國體ノ精華ノ發露ハ今日ノ戰争ニ依ツテ我々ニハ分ッテ居ル、苟モ之ニ影響ヲ及スヤウナコトガアッタラ容易ナラザルコトデアル、ソンナコトハ御承知グラウガ、不幸ニシテ司法大臣ノ認識ノ足ラナイ所ハ、此ノ私有財產ノ廢止ナリ或ハ參政權ノ廢止ナリト云フコトヲ國體ト切り離シテ考へルヤウナ思想ヲ持シテ居ラレル、是ハ私ハト認メル、此ノ點ニ於キマシテ政府ノ痛切ナル反省ヲ促シマシテ、私ノ此ノ意見ヲ贊成意見ニ代ヘマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 他ニ御發言モナケレバ、是ヨリ採決ヲ致シマス、先ヅ戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關スル法律案、裁判所構成法戰時特例案ノ兩案ヲ議題ト致シマスルコトニ御承知ヲ願ヒマス、兩案ノ第一讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマス、初メテ實ヲ結シダ、ドレダケ專制主義ト云フモノガ日本ノ國體ニ害ラナシタト云フコトハ小學校ノ生徒モ知ッテ居ル、日本ノ歴史ト云フモノハ詰リソレヲ言ッテ居ルモノナンダ、ソコデ出来上タモノガ此ノ立憲政治、國民ヲシテ政治ニ參與セシメ、議會ヲ以テ政治ノ中心トシテ、サウシテソレト政府ト密接ナ關係ヲ以テ輔弼ノ任ヲ果ス、是ガ憲政ノ眞髓デアル、處ガ往々ニシテ之ヲ否認スル者ガアル、之ヲ否認シテ又專制ノ昔ニ復セバ、折角三年來ノ忠臣豪傑ガ盡策シテ來タ所ガマルデ水泡ニ歸スル、又元ノ昔ノ幕府時代ニモウ一遍戻シテ來日本ノ國體ノ精華ノ發露ハ今日ノ戰争ニ依ツテ我々ニハ分ッテ居ル、苟モ之ニ影響ヲ及スヤウナコトガアッタラ容易ナラザルコトデアル、ソンナコトハ御承知グラウガ、不幸ニシテ司法大臣ノ認識ノ足ラナイ所ハ、此ノ私有財產ノ廢止ナリ或ハ參政權ノ廢止ナリト云フコトヲ國體ト切り離シテ考へルヤウナ思想ヲ持シテ居ラレル、是ハ私ハト認メル、此ノ點ニ於キマシテ政府ノ痛切ナル反省ヲ促シマシテ、私ノ此ノ意見ヲ贊成意見ニ代ヘマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 四案ノ第一讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、四案全部、委員長ノ報告通牒リテ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認マセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 四案ノ第三讀會ヲ開キマス、四案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 四案ノ第三讀會ヲ開キマス、四案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第五、昭和十五年法律第六十九號中改正法律案、日程第七、臺灣事業公債法中改正法律案、日程第八、高等商船學校及商船學校ノ移管ニ伴フ一般會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案、日程第九、作業會計法中改正法律案、日程第十、勞働者年金保險特別會計法案、日程第十一、昭和十七年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第十二、昭和十五年法律第七號中改正法律案、日程第十三、昭和十三年法律第五十三號中改正法律案、日程第十四、昭

十四件ノ委員會ニ於ケル經過及結果ヲ御報
告申上ゲマス、先づ第一ニ、昭和十五年法律第六十九號中改正法律案デゴザリマスガ、是ハ支那事變ニ關シマスル一時賜金トシテ交付致シマスル爲、公債發行ニ關スル法律ノ改正案デゴザリマス、現行法上支那事變ニ關シ功勞アリタル陸海軍軍人其ノ他ニ對スル行賞ノ爲、昭和十五年度分及十六年度分ト致シマシテ、總額六億三千二百七十萬圓ヲ限リ一時賜金トシテ交付スル公債ノ發行權限ガアルノデゴザリマスガ、今回更ニ文官其ノ他ニ對スル分、竝ニ大東亞戰爭ニ際シ死歿シタル軍人軍屬ニ對スル分ヲモ含メマシテ、公債發行限度ヲ五億四百萬圓增加致シマシテ、十一億三千六百七十萬圓トシ、昭和十五年乃至同十七年度分トシテ發行セムトスルモノノデゴザリマス、次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案デゴザリマスガ、是ハ朝鮮總督府特別會計ニ於ケル事業費支辨ノ爲、公債發行限度ヲ二億三千二百二十萬圓增加セムトスルモノノデゴザリマス、次ニ臺灣事業公債法中改正法律案デゴザリマスガ、是ハ臺灣總督府特別會計ニ於ケル事業費支辨ノ爲、公債發行限度ヲ六千五百五十萬圓增加セムトスルモノノデゴザリマス、次ニ高等商船學校及商船學校ノ移管ニ伴フ一般會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案デゴザイマスルガ、是ハ海事行政機構ノ擴充強化ニ伴ヒマシテ、官立高等商船學校及商船學校ヲ文部省所管ヨリ遞信省所管ニ移スコトトナリマシタ結

果、是等ノ學校ハ本年一月一日ヲ以テ學校及圖書館特別會計ヨリ一般會計ニ移シ替フルコトトナリ、其ノ關係上昭和十六年十二月三十一日現在ノ學校及圖書館資金ニシテ、シテ交付致シマスル爲、公債發行ニ關スル法律ノ改正案デゴザリマス、現行法上支那事變ニ關シ功勞アリタル陸海軍軍人其ノ他ニ對スル行賞ノ爲、昭和十五年度分及十六年度分ト致シマシテ、總額六億三千二百七十萬圓ヲ限リ一時賜金トシテ交付スル公債ノ發行權限ガアルノデゴザリマスガ、今回更ニ文官其ノ他ニ對スル分、竝ニ大東亞戰爭ニ際シ死歿シタル軍人軍屬ニ對スル分ヲモ含メマシテ、公債發行限度ヲ五億四百萬圓增加致シマシテ、十一億三千六百七十萬圓トシ、昭和十五年乃至同十七年度分トシテ發行セムトスルモノノデゴザリマスガ、是ハ大藏商工兩省間ニ於ケル所管事務ノ調整ノ爲、從來大藏大臣ノ管理ニ屬シマシタル「アルコール」專賣事業ヲ商工大臣ノ管理ト致シマシタノニ伴ヒマシテ、之ニ關スル會計經理ヲ燃料局酒精部特別會計ヲ設置セムトスルモノノデゴザリマス、次ニ朝鮮事業公債法中改正法律案デアリマスガ、是ハ昨年三月公布サレマシタ勞働者年金保險特別會計法案デアリマス、次ニ勞働者年金保險法ニ基キ、政府ノ管掌致シマス勞働者年金保險事業ニ關スル歲入歲出ヲ、政府ノ管掌スル他ノ保險事業同様一般會計ト區分經理スル必要力ラ特別會計ヲ設置セムトスルモノト、勞働者年金保險法ノ施行ニ伴ヒマシテ、郵便年金特別會計ト本會計トノ間ニ於テ生ジマスガ、是ハ昭和十五年法律第七十九號改正法律案デアリマスガ、是ハ陸軍作業會計法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資金會計法ノ臨時特別例ニ關スル件ノ改正法律案デアリマシテ、前記各特別會計ニ於ケル品供給ノ範圍ヲ擴大シ、且陸軍航空工廠資金ニ不足アルトキハ三千五百萬圓ヲ限リ借入金ニ依リ之ニ臨時補足シ得ルコトトセムガ、是ハ昭和十七年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案デアリマスガ、是ハ昭和十七年度歲入歲出總豫算追加第一號及第二號ヲ合セマシタル歲出

總額二十六億二百十餘萬圓ニ對シ、普通歲入十億三千六百餘萬圓竝ニ借入金五千四百萬圓ヲ充當シテ、尚不足スル十五億千百九拾餘萬圓ノ内、現行ノ公債法ニ依リ調達シ得ル道路公債分四百十餘萬圓ヲ差引キ、殘額十五億七百九十萬圓ヲ限リ起債ノ權能ヲ得ムトスルモノデアリマス、次ニ昭和十五年法律第七號中改正法律案デアリマスガ、是ハ造幣局ノ廳舍、工場其ノ他ノ建物及ビ其ノ附屬設備ノ新營擴張ニ要スル經費ニ充用スル爲、造幣局資金ノ中ヨリ更ニ一千八百九十九萬八千百七十五圓ヲ一般會計ヘ繰入ヲナシ、併セテ既定年限ヲ一箇年延長セムトスルモノノデアリマス、次ニ昭和十三年法律第五十三號中改正法律案デアリマスガ、是ハ印刷局ニ於ケル据置運轉資本ニ不足ヲ生ジマシタル場合ニ、一時補足シ得ベキ借入金ノ現行法定額ハ七百萬圓デアリマスノヲ、事業量ノ急激ナル増大ニ對處シ、之ヲ千五百萬圓ニ増額セムトスルモノノデアリマス、次ニ昭和十五年法律第七十九號改正法律案デアリマスガ、是ハ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ、臨時軍事費特別會計ニ繰入ル、コトニ關スル件ノ改正法律案デアリマシテ、各外地ニ於テ道運賃、自動車運賃又ハ通信料金ノ改正ニ依ル增收額ノ一部ヲ、新タニ臨時軍事費特別會計ヘ繰入ル、コトトセムトスルモノデアリマス、次ニ昭和十二年法律第八十四號中改正法律案デアリマスガ、是ハ支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ノ改正案デゴザイマシテ、先般

成立致シマシタ臨時軍事費特別會計豫算追加百八十億圓ノ財源中、三十億四千九十九餘萬圓ニ付キマシテハ一般會計及特別會計ヨリノ繰入金ヲ以テ、又九億五千八百五十餘萬圓ニ付キマシテハ軍事費獻納金、北支事件特別稅收入其ノ他雜收入ヲ以テ充當致シマスガ、差引キ不足スル百四十億四十餘萬圓ニ付キマシテハ公債財源ニ依ルコトスル爲、現行ノ公債發行限度ヲ百四十億五十萬圓増加セムトスルモノデゴザイマス、最後ニ臨時軍事費特別會計法中改正法律案デゴザイマスルガ、是ハ第一ニ、軍需充足ノ必要カラ、或ハ戰地ニ於ケル特別ノ必要カラ致シマシテ、臨時軍事費特別會計ニ屬スル物資ヲ賣拂ヒ得ルコトトシ、第二ニハ、軍が現地ニ在ル軍需品以外ノ物資ノ取得若シクハ賣拂ヲ爲ス場合ノ會計經理ヲ、當分ノ間本會計ノ歲入歳出トシテ經理スル途ヲ開キ、第三ニハ、第一ノ改正ノ結果、本會計が臨時陸軍材料資金特別會計ノ同様ノ作用ヲ行フコトナル爲、臨時陸軍材料資金特別會計ノ年度ヲ終結スルコトセムトスルモノデゴザイマス、以上ハ付託サレタシタ十五件ノ法案ノ内容ノ概略ヲ申上ゲタノデアリマス、以上十五件ハ一月三十日本委員會ニ付託セラレタノデゴザイマスガ、其ノ後一月三十一日、二月二日、四日ト三回會議ヲ開キマシテ慎重ニ審議ニ當タノデゴザイマス、其ノ詳細ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ願フコト致シマスルガ、唯茲ニ簡單ニ質疑應答ノ主ナルモノヲ申上ゲマス、委

員會ニ於キマシテハ、各件ニ付キマシテ順次ニ熱心ナル質疑應答ガ行ハレマシタノデスガ、其ノ主ナルモノノ二三ヲ申上ゲマスト、支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債ニ關シマシテ、今回ノ行賞ハ何時現在ヲ以テ爲スモノナリヤ、又現在迄ノ發者ヲ除クノ外、昭和十五年四月二十八日ヲ以テ打切り、翌二十九日附ヲ以テ發令セラレタル旨デアリ、又發令濟人員ノ數ハ、昭和十六年十二月末現在ニ於テ約百七十五萬三千人デアルトノ答辯デゴザイマシタ、又朝鮮總督府及臺灣總督府各特別會計ニ於ケル道路修築改良、臺灣修築改良、電信電話擴張改良、治水砂防土地改良事業、鹽田築造其ノ他デアリ、臺灣ニ於テハ鐵道建設改良、其ノ他デアリ、臺灣ニ於テハ鐵道建設改良、建築港、大甲溪開發事業等デアルトノ御答辯デアリマシタ、尙朝鮮ノ鐵道建設事業及臺灣ノ大甲溪開發事業ニ付キマシテハ、特ニ詳細ナル御説明ガゴザイマシタ、又代用燃料政策ノ將來ノ見透シニ關スル質問ガゴザイマシタガ、此ノ要旨ハ、石油ノ消費規制ト共ニ代用燃料政策ハ依然強化セネバナラヌ、代用燃料資源トシテハ木炭、薪モサウハ食糧問題、農村問題トシテハ木炭、薪モサウシ、可能ナル範圍ニ於テ之ヲ代用燃料ニ差向ケタイト思フト云フヤウナ答辯デゴザイ

員會ニ於キマシテハ、各件ニ付キマシテ順次ニ熱心ナル質疑應答ガ行ハレマシタノデスガ、其ノ主ナルモノノ二三ヲ申上ゲマスト、支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債ニ關シマシテ、今回ノ行賞ハ何時現在ヲ以テ爲スモノナリヤ、又現在迄ノ發者ヲ除クノ外、昭和十五年四月二十八日ヲ以テ打切り、翌二十九日附ヲ以テ發令セラレタル旨デアリ、又發令濟人員ノ數ハ、昭和十六年十二月末現在ニ於テ約百七十五萬三千人デアルトノ答辯デゴザイマシタ、又朝鮮總督府及臺灣總督府各特別會計ニ於ケル財政狀態、收入狀況ニ應ジ、鐵道、大藏兩省令濟人員ノ數如何ト云フ質問ガゴザイマシテハ、是ハ將來ニ於ケル鐵道改良費ノ平準化ヲ圖ル爲ノモノデアッテ、其ノ時々ノ尙大體固定資產ノ「ペーセント」位トシタイ、即チ昭和十七年度分ハ固定資產約四十億圓ニ對シ、改良準備金四千五百萬圓ヲ計上シタト云フ御答辯デゴザイマス、又臨時軍事費特別會計法ノ改正ニ依リ、本會計ニ於テ物資ノ取得、賣拂ヲ爲スハ、本會計ノ經理ヲ困難ナラシムル虞ナキヤトノ質問ニ對シマシテハ、物資ノ取得、賣拂ハ別個ノ特別會計ヲ設ケテ經理セシムル方ガ、或ハ適當デアルカモ知レヌガ、戰地ノ實情ニ鑑ミ當分ノ措置トシテ臨時軍事費特別會計ニ於テ經理スル方ガ實際的デアルトノ御答辯デゴザイマシタ、以上ノ外、各法案ニ付キマシテ各種ノ問題ニ亘り、各委員カラ熱心ナ御質問ガアリ、又時ニハ祕密會ト致シ、又度々速記ヲ中止致シマシテ、政府ト委員トノ間ニ隔意ノナキ意見ノ交換ガゴザイマシタ、斯ク致シマシテ一般ノ質疑ヲ終リ、討論ニ入りマシテ、討論ニ際シマシテモ或法案ニ付テハ二三ノ希望ヲ付セラレテ贊成ノ結果、委員會ハ全會一致ヲ以テ十五案共

上簡單ナガラ御報告申上ゲマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ、十五案ノ採決ヲ致シマス、十五案基準ハドウナツテ居ルカト云フ質問ニ對シト、支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債ニ關シマシテ、今回ノ行賞ハ何時現在ヲ以テ爲スモノナリヤ、又現在迄ノ發者ヲ除クノ外、昭和十五年四月二十八日ヲ以テ打切り、翌二十九日附ヲ以テ發令セラレタル旨デアリ、又發令濟人員ノ數ハ、昭和十六年十二月末現在ニ於テ約百七十五萬三千人デアルトノ答辯デゴザイマシタ、又朝鮮總督府及臺灣總督府各特別會計ニ於ケル財政狀態、收入狀況ニ應ジ、鐵道、大藏兩省令濟人員ノ數如何ト云フ質問ガゴザイマシテハ、是ハ將來ニ於ケル鐵道改良費ノ平準化ヲ圖ル爲ノモノデアッテ、其ノ時々ノ尙大體固定資產ノ「ペーセント」位トシタイ、即チ昭和十七年度分ハ固定資產約四十億圓ニ對シ、改良準備金四千五百萬圓ヲ計上シタト云フ御答辯デゴザイマス、又臨時軍事費特別會計法ノ改正ニ依リ、本會計ニ於テ物資ノ取得、賣拂ヲ爲スハ、本會計ノ經理ヲ困難ナラシムル虞ナキヤトノ質問ニ對シマシテハ、物資ノ取得、賣拂ハ別個ノ特別會計ヲ設ケテ經理セシムル方ガ、或ハ適當デアルカモ知レヌガ、戰地ノ實情ニ鑑ミ當分ノ措置トシテ臨時軍事費特別會計ニ於テ經理スル方ガ實際的デアルトノ御答辯デゴザイマシタ、以上ノ外、各法案ニ付キマシテ各種ノ問題ニ亘り、各委員カラ熱心ナ御質問ガアリ、又時ニハ祕密會ト致シ、又度々速記ヲ中止致シマシテ、政府ト委員トノ間ニ隔意ノナキ意見ノ交換ガゴザイマシタ、斯ク致シマシテ一般ノ質疑ヲ終リ、討論ニ入りマシテ、討論ニ際シマシテモ或法案ニ付テハ二三ノ希望ヲ付セラレテ贊成ノ結果、委員會ハ全會一致ヲ以テ十五案共

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成
○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ
○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ
○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ
○議長(伯爵松平賴壽君) 諸君異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 十五案ノ第三讀會ヲ開キマス、十五案全部、第二讀會ノ決議通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第二十、兵器等製造事業特別助成法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長候爵西郷徳君

兵器等製造事業特別助成法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十七年一月四日

委員長 侯爵西郷 徳

貴族院議長伯爵松平頼壽殿
〔侯爵西郷徳君演壇ニ登ル〕

○侯爵西郷徳君 兵器等製造事業特別助成法案特別委員會ノ經過並ニ結果ニ付キマ

シテ御報告ヲ申上ゲマス、特別委員會ハ去ル二日委員長並ニ副委員長ノ互選ヲ終リマ

シテ、政府委員ノ目的ニ付キマシテノ御説明ハ

大體本會議議場ニ於テ提案理由ヲ説明ニナリマシタノト同様ノ説明デアリマシテ、引續

イテ殆ド逐條ニ亘ツテ詳細ナル説明ガゴザイマシタ、一月三日並ニ四日委員會ヲ開キマシテ、委員ト政府委員トノ間ニ質問應答ヲ重

ネマシタガ、御分リ易イヤウニ應答ノ順序過ギル案デハナイカト云フ意味ノ詳細熱心ナル質問ガアリマシタ、政府委員モ亦速記

ヲ變更致シマシテ其ノ大要ヲ次ニ申上ガタ
イト存ジマス、一委員ヨリ根本問題ニ付テ
質問ガアリマシタ、之ヲ要約致シマスト、兵

器ノ獨立、即チ兵器ハ國產テ自給自足セネ
バナラヌモノデ、從ツテ業者ニ於テハ此ノ理
解ガ最モ必要デアルガ、我ガ國ニ於テハ、
從來專ラ自由主義若シタハ社會主義的デアッ

テ、關稅政策ノ如キモ國防關稅ハ行ハレズ
ニ居ツタト云フコトガ一ツ、次ニ製鋼製鐵
政策上南方ニ國營鐵鋼所ノ必要ナルコト
及ビ產業設備營園トノ關係等デアリマス、
政府委員モ大體同感デアリマシテ、研究シ

テ居ルトノコトデアリマシタガ、其ノ要旨
ハ次ノ通りト存ジマス、兵器用ノ原材料ハ
輸入ヲ防遏スル爲ニ國防關稅ノ如キモノヲ
必要トルコトハ適當ト考ヘル、此ノ點ニ
付テハ、既ニ我ガ國ニ於テモ自動車事業ニ
實施サレテ居ル、今後實情ニ適應シタ措置
ヲ執ル心算デアル、次ニ我ガ國ノ製鐵ハ今

日殆ド自給自足ノ狀態デアル、併シナガラ
ヲ設ケタ次第デアル、南方ニ國營ノ製鐵所
ノ用意アル旨答辯ガアリマシタガ、終リニ
當局ノ更代トカ時勢ノ變化トカノ爲ニ意外
ノ結果ニ終ラザルヤウニ注意アリタキ旨ノ
御意見ガ出マシテ、此ノ應答モ一々御説明

ヲ申上ゲマスト餘リ長クナリマスカラ、速

メマス、以上ノ如ク三日間ニ亘リ質問應答ノ

後、討論ニ入りマシタガ、格別ノ御意見モ
○子爵植村家治君 贊成

ヲ中止シテ詳細ナル説明ガアリマシテ、質
ニ關シテモ本法案ハ間接ニ改良進歩ニ效ア
重ネラレマシタガ、ソレハ略シマス、一委
員ヨリ兵器ニ關シ官營民營ニ關スル質問ガ
質ニ關スル研究機關等ノ狀況ニ付テ應答ガ
重ネラレマシタガ、ソレハ略シマス、一委
員ヨリ兵器ニ關シ官營民營ニ關スル質問ガ
アリマシテ、結局、民營ハ自然ノ成行キニ
委セテ、今日以上ハ官ニ於テ專ラ充實シテ
ハ如何ト云フ御意見ノ質問ガ出マシタガ、
政府委員ノ答辯ハ、官營ニモ自ラ限度ガア
リ、本法案ニ依テ民間ハ十分安心シテ之
ニ應ジ得ルナラムトノコトデアリマシタ、
以下本法案ノ内部ニ關スル質問應答ノ要旨
ヲ申上ゲマスガ、一委員ヨリ、本案ノ内容
ト申シテ宜シウゴザイマスカ運營上ニ付テ
ト申シマスカ、殆ド逐條、即チ十數件ニ亘ツ
テ、從來ノ民營國有反對ニ、國有民營タ
ル本法案ノ内容ニ付テ、所謂民營、即チ民
間側ノ立場ニ於テ當然生ズベキ點ニ蘊蓄ノ
アル質問ガアリマシタ、政府ニ於テモ十分
ノ用意アル旨答辯ガアリマシタガ、終リニ
當局ノ更代トカ時勢ノ變化トカノ爲ニ意外
ノ結果ニ終ラザルヤウニ注意アリタキ旨ノ
御意見ガ出マシテ、此ノ應答モ一々御説明

ヲ申上ゲマスト餘リ長クナリマスカラ、速
メマス
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問
題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通
リデ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
メマス
○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ付テ御承知ヲ願ヒタイト希望致シマス、
アリマシタガ、是モ亦速記録ヲ御覽願ヒ
マス、以上ノ如ク三日間ニ亘リ質問應答ノ

議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第三讀會
ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通
リテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第彙報
ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散
會致シマス

午前十一時四十七分散會

貴族院議事速記録第八號正誤

一〇七 三 一五 二百十五億 二百七十五億
一一二 二 二四 「第一項ニ掲タル法律ノ
廢」ハ別項トナルベキノ誤